

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価者版(2016年版、名古屋建築環境総合性能評価システムマニュアル2016) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)APマンション陸前町	階数	地上10F
建設地	名古屋市名東区陸前町24番、25番の一部、31番の一部	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、第一種住居地域、第二種住居地域 準防火地域	平均居住人員	162 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年12月17日
敷地面積	3,515 m ²	作成者	
建築面積	650 m ²	確認日	2021年12月24日
延床面積	4,581 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE 0.6</p> <p>★☆☆☆☆ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> <p>環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)</p>	<p>☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆ 80%:☆☆☆☆ 60%:30%</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>(kg-CO₂/年・m²)</p>	<p>Q2 サービス性能 (5)</p> <p>Q3 室外環境 (敷地内) (3)</p> <p>LR1 エネルギー (2)</p> <p>LR2 資源・マテリアル (1)</p> <p>LR3 敷地外環境 (2)</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.4</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.6</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 1.8</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.7</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 2.9</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.7</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.6</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>ファミリー向けの賃貸住宅と1階の貸店舗のアプローチは完全に分けて使用できる建物とした。敷地の北側を平面駐車場とすることで、日影の影響や圧迫感のない建物配置とし、周辺環境にも配慮した計画とした。</p>	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>室内の居住性を考慮した採光、換気計画とした。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>天井高さをできる限り取るようにして、広さ感を出す計画とした。</p>	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>景観への配慮や防犯カメラの設置など、防犯性にも配慮した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>一次エネルギー消費量を抑えることに寄与する設備選択に努めた。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>有害物質を含まない建築材料などをできるだけ使用するように努めた。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>敷地内に住戸数以上の駐車場と自転車置場を設けた。1階店舗は専用の駐車場と自転車置場を設けて、住宅部分と出入口を別に設けた。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)APマンション陸前町

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.9
LR1	エネルギー	3.0	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.9



2. 自然共生

評価点 = 1.6



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。